

高知くらしの護身術

369

高齢者狙うトラブル

身近な人々が守ろう

(2015年9月22日掲載原稿)

高齢者を狙った消費者トラブルには、次のような特徴があります。

① 当事者である本人がだまされたことに気付いていない。

疑うことを前提としない高齢者の中には、まさか自分がだまされているとは思っていない方も多くいます。

② 被害に遭っても、誰にも相談しない。

被害に遭ったことに気付いても、「人に知られるのが恥ずかしい」「家族に迷惑を掛けたくない」などと考え、誰にも相談しないケースも少なくありません。

トラブルを防ぐためには、本人が問題意識を高めるとともに、身近な方々が日頃から高齢者の様子を気に掛けて見守ることが大切です。

地域の見守りで被害を未然に防いだ事例を紹介します。

【事例】一人暮らしの高齢者宅に布団業者が突然訪れ、20年以上前に購入した羽毛布団の点検をしたいと言われた。断り切れず家に上げてしまったところ、湿気や汚れで傷んでいると言われ、リフォームを勧められた。

金額を尋ねると、18万円と高額だったので「払えない」と断ると、「契約してくれるまで帰らない」と居座られ、困っていた。

すると、近所の人気付いて声を掛けてくれ、業者に「必要ないので帰るように」と断ってくれた。

多くの高齢者は「お金」「健康」「孤独」という三つの不安を抱えており、その不安につけ込み「カモ」にしようとする悪質業者に狙われています。

高齢者自身が、狙われやすいことを自覚しておくことも必要です。また、身近な人々が高齢者の変化に気付き、相談機関につなぐことも重要です。特に一人暮らしの高齢者には、困ったことがないか時々声を掛けるようにし、消費者トラブルから守りましょう。